

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

睦月 月次祭挨拶

サルートン皆様こんにちは
早くも新年より三週間が過ぎ、今日は睦月の月次祭を皆様方と執り行わせて頂き誠にありがとうございます。

新年祭には若い人達も参拝に来て頂き雰囲気が明るくなりました。

元日三が日はこの地方では好天に恵まれ各地へ行かれた方達もおられたと思います。

六日には、島根県・鳥取県を震源地に震度五の地震が発生いたしました。

幸いにも、出雲本苑など大きな被害もなく、ただ地震の揺れが大きく怖かったと連絡がありました。

節分人型活動にお仕えいただいている方は、二月二日、月曜日に受付を締め切らせていただきます。

この日に迄には必ず、分苑へ届けて頂きますようお願いいたします。

節分大祭での地方祭員は日比達朗さま永島昶さま・瀬織津姫にはこの度初めて参加されます仲嶋さや香さまがご奉仕されます。

祭員入場や和知川での瀬織津姫行事等で姿をお見かけするかと思えます。

二月の行事としましては、七日に月始祭を行い、翌八日の十四時から会計監査をお願いして、十五日の月次祭の後、令和七年度の決算報告の総代会を開催いたします。

事務所の棚に総代会の案内を入れていきますので宜しくお願い致します。

二月の月次祭には、前田特派が来苑されます。

二月二十八日と三月一日に二十八回東海サミットを名古屋分苑主催でグリーンパレス

春日井にて行いますので、その打ち合わせ、またお香良洲神社へ教主さまが十月十八日に正式参拝をされますので、その説明があります。

名古屋分苑秋季大祭と日付が重なるために昨年と同じく大祭を一週間前後するなど役員と関係者で相談させて頂きました。

現在、全国的にインフルエンザが流行しています。

日常におかれましては、手洗い・うがい等励行していただき、日頃より体調管理に気を付けて、先ずは人型活動をお願いいたします。

教主さまの新年のあいさつ文を愛善みずほ会から一部紹介させて頂きます。

今年の干支である丙午は、情熱と勢いに満ちた大きな飛躍のチャンスがある年と言われていると思います。本年も、天地のご恩に感謝を捧げ、さまざまな発酵堆肥によって、微生物が生き生きと力を発揮し、活躍する土づくりに励んでまいります。そして、食・農・環

境の大切さを農業に従事される方々はもちろん、消費者の皆さまにも積極的に広くお伝えし、会員の皆さまと力を合わせて、日本の農の発展に寄与してまいりたいと存じます。

さらに、すべての皆さまが、お土に触れ、作物を育てる喜びを、そして料理や健康な食品を自ら手作りでできる喜びを感じていただけますよう、努めて参ります。

本日の参拝誠にありがとうございます。コーランダンコン。

行事報告

●新年祭

一月一日(木)

参拝者 四十一名

齋主 瓜生 秀明

祭員 妹尾 正治

祭員 日比 達朗

典礼長 小林 清人

伶人 飯田 直美

伶人 岡田 幸子

進行 飯田 和彦

併せて、成人式祝詞が奏上され、祭典後に本部直心会から

の記念品・分苑からのお祝いの品が贈呈された。新成人の皆様おめでとございます。新成人 弥富支部 加祥天斗 神ノ倉分所 久野莉子



直会のおせち作り

●月次祭

一月十八日(日)

参拝者 三十八名

齋主 高嶋 善雄

祭員 飯田 和彦

祭員 妹尾 正治

祭員 永島 昶

祭員 堀 健太郎

祭員	日比 達朗
祭員	島山 茂
裏方	伊藤久仁男
裏方	永田 浩之
典礼長	小林 清人
伶人	飯田 直美
伶人	佐古 美鈴
伶人	長谷川美枝
伶人	伊藤恵美子
進行	堀 宜雄



行事予定

二月十五日(日)
 月次祭 午前十時半より
 総代会(令和七年度決算)
 二月二十八日 三月一日
 東海サミット
 会場 グリーンパレス春日井
 (名古屋分苑主催)
 三月七日(土)
 月始祭 午後一時半より

じいじの道草雑話

【人生の目的】

特任宣伝使 妹尾正治

大本教本一級の講習会に講話担当で参加した。

じいじにの人生の目的とはと聞かれれば「お金に困らない事・健康で長生きする事・温かい家庭を築く事」と答えるのだが、教本での「人生の目的」はそんな軽い事ではなく人はもっと奥深い使命を持つて生を受けていると記されている。

講話のテーマは「講話の作り方」であったが、岡野雅行さんの著書「学校の勉強だけではメシは食えない！」を携えてお話しした。

岡野さんの学歴は小学校卒、従業員5人の小さなプレス工場の社長さんである。そんな会社へ大会社の開発担当者が視察に来たり、NSAやペンタゴンからも注目されていると云う。

金属の絞り加工では世界一の職人であり、下町気質の塊のような「江戸っ子」そのものの彼は、リチウムイオン電

池のケースとか痛くない注射針の量産に成功したことで名声が知られることになった。

ある日、医療機器メーカーのテルモ社から依頼されたのは、20ミリの長さの注射針で、太い所で350マイクロン細い所は200マイクロン、穴の直径は80マイクロンというものだった。

大学教授に相談したが金属工学的に無理と言われた。「出来ないと言うならやってみよう！」と3年かけて絞り加工で作り上げた。技術が理論を上回った瞬間だった。

岡野さんは出演したテレビ番組で、一万回以上インシュリンを注射し続けている小学生の子から「ぜんぜん痛くなかった、作ってくれた人有難う」と言われ「これまで生きてきて何よりも感激した」と書いています。

「人生の目的」それは誰かの役に立つこと、ひとりでも幸せに出来ることでないかと思つた。

こんな想いが世界中に広がってほしい

天国へのぼる秘訣

疑ったり、恨んだり、そねんだり、ねたんだり、悲しんだり、憤ったりするごとに、ちやうど、それに相当しただけ、自分の魂は小さく、醜く、きたなくなるわけでありませぬ。

われわれは平素、なんでもないことに吾とわが心を痛め疲らしている場合が非常に多いのであります。

つねに心をひろく、大きく、ゆたかに持つ工夫をすることが、一番必要なことであります。

つねに感謝にみちた愉快な気持ちで暮らす工夫が、一ばん大切であります。

どんな人に対しても、けつして悪く、これを思つてはなりません。つねに、あたたかい同情と好意をもつて接せねばなりません。

どんな事件に出会つても、決して、これにシヨゲかえつて悲観や絶望をはいけません。「これも何かの神さまのご慈悲である、大難を小難にまつりかえて下さったのだ」と、よい方向に解釈して、有難く嬉しく日を送る心になりさえしたら、もう天国はその人の所有となつているのであります。

何事も神意にまかして、あせらず、あわてず、その日その時のベストをつくして、一生を一日のごとくに悠々とおくる工夫をせねばなりません。

天国へ行くのも地獄へ落つるのも、みな自分自身が平素からの心の状態がつもりつもつて、必然的にそうなるまででありまして、けつして、神さまが連れて行かれるものでも、また社会がそう強いるものでもありません。みな、みずからの心の持ち方ひとつが作り上げるのであります。